

特集 2 : 2013 年度東北復興支援プロジェクト NO. 1

昨年 4 月からはじまった南三陸の復興支援プロジェクト。まず植物のある環境を造り、植物を通してコミュニケーションが生まれ、ひととひとがつながり、癒され、安心感や期待をもてる場が広がればと南三陸で庭造りをしました。

今年はその庭を中心に、植物や園芸作業を活用する園芸プログラムを提供していく計画です。Sola の平田さんと区長さんに調整していただき、毎月 1 回 3 カ所を訪ねて 2 時間ずつの交流を考えています。キッズガーデン造りがコミュニティガーデン造りになり、活動が南三陸から次回は石巻へ広がり、名称を東北復興支援プロジェクトにすることにしました。

第一回「じゃがいもと花苗を植えよう！」

4 月 13 日(土) 夜～15 日(月) 夜まで南三陸に行ってきました。昨年庭の移転のために 11 月の連休に行ってきた以来、5 か月ぶり。朝夕は冷え込んでいましたが、日中はぽかぽか陽気で、桜の蕾がほころびはじめ、水仙が咲き始めていました。私たちが植えていったチューリップが顔を出し、ハーブも雪を耐えて無事でした。



14 日午前旭ヶ丘地区センターでの活動。お世話になっている区長さんと、負けて玉るか作者の奥さまとの再会に笑顔が咲き、ご近所に住む志津川小学校 PTA 会長がご参加くださり、みなさんが

集めてくださったベルマークとインクカートリッジをお渡しして喜んでいただきました。地域の方々が参加して下さり、老若男女でじゃがいもの袋栽培と、昨年造ったガーデンに花苗の寄せ植えをしました。次回にしおりやハガキを作成するために押し花も造り、男児は電動のこぎりやドリルで植物の名札も作ってくれました。その後の地区長さんからのご報告で、植えた花を見にお年寄りが毎日集まってはながめて楽しんでいるとの事です。

14 日午後は以前庭のあった横



のクリスチャンセンターを会場にしてのプログラム計画でした。庭の地主だった C さんが会いに来てくださり、再会が嬉しかったです。

活動は、仮設に住むこどもたちとの予定でしたが、知らない大人との活動のマイナスイメージが積み重なっていたようで、知らない大人はイヤ。後日平田さんと仮設でじゃがいも植えをしたいとのことで、じゃがいもの植え付けのセットと押し花のセットをお渡しして託しました。こどもたちが意思表示をできたことはよかったです。様々なボランティアが関わる中でこどもたちにも様々な影響を与えていることを垣間見る場面でした。

15 日午前中は、志津川町の袖浜にある仮設住宅にはじめて伺い、お年寄りと一緒に活動をしました。わかめの収穫でお忙しい時期だったようで、浜へ手伝いに行かれた方々も多く、5 名のご参加でした。遠くから来てくれたからと、お付き合い下さった感じでスタート。おちゃっこ（お茶飲み）したり、おしゃべりしながら押し花をして、屋外でじゃがいもを植えて花の寄せ植えしている間に話も盛り上がり、打ち解けて楽しんでいただきました。次はいつくんのさ？日曜がいいよな～と。



みなさんのご挨拶やお話しの節々に仮設でお世話になっている、みんなに助けってもらって感謝していると自然と出てくるお話しぶりにじ～んとしてしまいました。

しかし、津波で全て流されて仮設にいらっしゃる悲しみは図り知れず。夜になると涙さ止まんねえのよ。んだでさ。みんな一緒だから。いい人ばかりよ。ここの仮設は寄せ集めでよ。今まで知らなかったのにこんなに仲良くなれて有難いよ。これもいつまで続くかこの先はまたばらばらよ。ま、新しいところでもまた楽しく暮らすっぺ。命助かったんだからよ。文句言ったらバチ当たるっぺ。あはは～と笑いながら話して下さいました。流されないで残っていたものもたくさん

の他県ナンバーの車が取りに来ていたこと。宝飾品は名前がないし証明できないので警察から受け取れなかったこと。あきらめることの繰り返しだったご様子が伝わりました。

毎日新聞の気仙沼支社の方が取材に来てくださり、下記のような記事にしてくださいました。袖浜の仮設は新聞記者の取材は初めて、花もらって植えるのも初めてだよ～と喜んでいただきました。

町の様子は5カ月でかなり変わっていました。がれきは撤去され、建物の基礎や壊れた建物もなくなり、広大な更地が広がり、山は高台移転のために木が切られ、上部が削られ、その土は沿岸部の盛り土になり、、、復興が進んでいるのですが、思い出の景色の変貌に地元の方のお気持ちはいかばかりかと胸が痛みます。

当会が仲介して、公益財団法人日本花の会から100本寄贈された桜があちこちに植えられています。区長さんから下記のご連絡をいただいたのでご報告します。

『主人を慕って南三陸町までたどり着いて義経主従の夫が平泉で戦死したことを知り、身を投げて花と散った小森御前の霊を慰めようと、その地に地元の有志が祠を立てて長年供養してきましたが震災で流出してしまいこの度、新しい祠を建立することになりました。その場所にいただいた桜を植えて後世に伝えたいと思い、桜の提供に尽力された皆様の名前を書き込み後世に伝えたいと思っております。』これまで代々伝わってきたものが全て流され、次の世代に遺すということをととても大切に考えていらっしゃいます。お役に立ててよかったです。

福幸ふくろうの販売のお手伝いをさせていただいた会社に寄ってご挨拶もできました。今回もまた多くの新しい出会いがありました。一期一会を大切に、ニーズを探りながら被災地にずっと寄りそっていきたいと思います。

5月予定—5月18日(土) 出発、20日(月) 夜帰宅
 6月予定—6月28日(金) 出発、30日(日) 夜帰宅
 7月予定—7月26日(金) 出発、28日(日) 夜帰宅
 ご都合あったら是非ご参加ください。



南三陸町の袖浜仮設住宅でボランティアに花を植える
 住民ら「南三陸町志津川袖浜で」

仙台市宮城野区の榴岡公園には多くの花見客が訪れた。同区、主婦、西根セイ子さん(63)は「にぎやかで楽しい。きょうは少し寒くて花見日和ではない」

被災者らが植栽「気分も明るく」
 園芸による福祉活動を続けているNPO法人「日本園芸療法研修会」(横浜市、沢田みどり代表理事)が、15日、南三陸町の袖浜仮設住宅で、被災者らと花やジャガイモを植え付けた。

95年設立の同会は、植物の栽培を通じた心身のリハビリ、福祉活動を各地で展開。南三陸町でも、昨年5月から花壇づくりなどを進めてきた。

住民らは「やっぱり花があると気分が明るくなる」などと笑顔を見せていた。

同会は今後月に1度、同町を訪れて活動を続ける。【井田純】

毎日新聞掲載記事

宮城県南三陸被災者支援活動 横浜YMCA夢すくすく賞受賞

2013年2月11日、澤田代表理事と第9回受賞団体表彰式に参加してきました。

横浜YMCA夢すくすく賞とは、2004年に創立120周年を記念して設立されました。地域、国際、ボランティアの分野で実現したい夢を持ち、夢の実現に向けて最後までチャレンジする意欲を持っている個人・団体を支援するものです。昨年からは開始した宮城県南三陸町で被災者支援活動について夢すくすく奨励賞を受賞し、20万円をいただきました。4月から月1回志津川町を中心にして地元住民や支援活動を続けている方々と連携し園芸療法を視点にした園芸プログラムを展開していきます。また、ニーズに応じて庭や遊び場を増やしていく環境整備もお手伝いする予定です。

JHTSの活動を評価いただき、ご支援下さる横浜YMCAのみなさまに心よりお礼申し上げます。

JHTS 理事 山田洋子(神奈川県)

他の受賞団体

「奨励賞」・・・横浜市立戸塚中学校生徒会 『共に歩もう福幸支援～気仙沼市唐桑中学校との連携による復興支援』

「特別賞」・・・特別非営利活動法人エンパワメントかながわ 『家庭に居場所がない高校生のための居場所作り』

NPO法人ABCジャパン 『外国につながる子供・保護者に対するサポート充実』